

ではびまん性に豊富に、B型では一部に、またC型では痕跡としてみられ、小器官は逆にC、BおよびA型の順に発達していた。細胞間結合は、A型では細胞質突起に富み、幅広い desmosome-tonofilament complex を形成し、central stratum を有する desmosome もみられた。またC型では細胞質突起に乏しく、痕跡的で狭小な desmosome が散見され、B型ではこれらが中等度に発達していた。これら3型の子後に関して、A、BおよびC型の5年生存率は手術群(127例)でそれぞれ65.8%(25/38)、90.0%(54/60)および86.2%(25/29)、放射線療法群(92例)で50.0%(16/32)、78.0%(39/50)および80.0%(8/10)であり、A型はB型($P < 0.01$)およびC型($P < 0.1$)に比べ予後不良であった。これらをIb期とII期以上に分けて検討すると、A型はB型に比べ手術群のIb期($P < 0.01$)および放射線療法群のII期以上($P < 0.1$)で予後不良であり、リンパ節転移率では、B型はIb期でA型($P < 0.01$)およびC型($P < 0.05$)に比べ頻度が低かった。

質問 (慶応大) 野沢 志朗

A型とC型で heterochromatin 量の差異の存在することを示されましたが、これと分化との関連性はどうか考えたらよろしいでしょうか。

回答 (長崎大) 福居 兼実

A型はBおよびC型に比べ、euchromatin が目立つものが多いが、この所見は細胞分化度と相関する所見とするよりはむしろ癌細胞の悪性度に相関するものと考えられます。

21. RI-lymphography と CT の併用による子宮癌リンパ節転移診断の試み

(杏林大)

松尾 周一, 高橋 康一, 山内 格
渡辺 拓, 阿部 穰, 鈴木 正彦

(同・放射線科) 宮坂 康夫, 古屋 儀郎

目的：子宮頸癌進行程度の評価には、現在臨床進行情別分類にもちいられている診断検査法のほか、lymphography, CT などの応用が検討されつつある。癌のリンパ節転移の診断に関しては lymphography の有用性が報告されているが、検査手技に熟練を要するなど、必ずしも広く普及するには到っていない。これに対し RI lymphography は解像力がやや劣るものの、特別な手技を要しない、足背よりの lymphography で描出されない内腸骨節が描出可能であるなどの利点を有している。本研究はこのような事実を基に、従来より検討を重ねてきた CT と RI lymphography

の組合せによつて、ルチーン化可能な子宮癌のリンパ節評価法を確立することを目的とした。

方法：当科で治療を行なった子宮癌26例について RI lymphography と CT を施行し、両者で得られた画像よりリンパ節所見の評価を試みた。RI lymphography は ^{99m}Tc -Rhenium 各 1 mci を左右脛上方1/3または子宮腔部の粘膜下および両足指間皮下の計4カ所に注入し、注入後約1時間と2時間または3時間の2回シンチレーションカメラ GCA 401-3型で撮影を行なった。CTはCT/Tを使用し撮影法は我々のルチーンに従った。

成績：CT 上内腸骨動脈領域や腸腰筋内側に接して存在したため、血管や筋の一部との鑑別が困難であったリンパ節の識別が容易となつた。CTでの false negative がある程度検出可能となつた。RI lymphography において我々は、①陰影欠損、②核種上昇の遅延、CTにおいては腫大したリンパ節陰影をもつて陽性所見とした。CT単独のリンパ節検出率は38%であったが、両者の併用によつて検出率は75%へと向上した。また正診率はCT単独では81%であったが、両者の併用により92%へと高めることができた。

質問 (岡山大) 藤田 卓男

① ^{99m}Tc -レニウムコロイドの場合、リンパ節が描出されても、必ずしも転移がないとは言えないとされています。これについて、御経験から得られた意見を聞かせて下さい。

② レニウムコロイドの場合、注入後30分すれば、膀胱に排出されたアイソトープが Halation を起こし、遠位のリンパ節が描出されにくく、欠損状態を作ります。又、鉛板を設置すれば子宮に接したリンパ節が描出されません。そこで、よい案があれば、教えて下さい。

回答 (杏林大) 松尾 周一

① 解像力が悪いと、微小転移巣は描出されない、またリンパ流路に障害がある時はその上位リンパ節は描出されない。その為に CT を併用するのは有用である。

② ^{99m}Tc -Rhenium の膀胱内貯留は問題点であるが排尿を充分行なえば、スクリーニング検査としては充分であろう。

22. 子宮頸部の vital cytology—微分干涉顕微鏡および電子顕微鏡による観察—

(久留米大)

河野 誠司, 西田 敬, 西田 富英

葉 清泉, 梅津 純也, 薬師寺道明
加藤 俊

Nomarski 微分干渉顕微鏡を用いて, 子宮頸部の正常な扁平上皮, 及び放射線照射によつて変化した扁平上皮を観察し, 得られた所見と電顕所見との比較検討を行ない, 次の様な知見を得た.

結論

1. 固定や染色の操作を加えずに, 光学顕微鏡を用いて, 迅速に, 簡便に, 細胞の詳細な所見を三次元的に得ることができた.

2. 子宮頸部扁平上皮の表層細胞は扁平に, 傍基底細胞は丸味を帯びて見えた. 化生細胞は厚味を持つて表現された.

Janus green-Neutral red による超生体染色では, 細胞質の微細顆粒構造が鮮明に観察されたが, それらを電顕所見と対比させることにより, 細胞質小器管に相当することが示唆された.

3. 扁平上皮の特徴である tonofilament は Janus green-Neutral red 染色により細網構造として観察された.

4. 放射線照射を受けた細胞では, 細胞質内空胞形成や tonofilament の集束が見られた. 又, 時折, 奇怪細胞が出現した.

5. 干渉顕微鏡による生鮮細胞診は, 今後婦人科領域の細胞診断学の発展に大きく貢献できるものと考えられた.

23. 婦人科悪性腫瘍患者に於ける Alkaline phosphatase の特性

(東京医大)

池畑 信正, 小林 一彦, 玉田 英世
秋谷 清, 藤原 幸郎

婦人科悪性腫瘍患者の血清及び癌組織について, 活性値の測定, 新しい電気泳動法による isoenzyme の検討, その他種々の条件下に於ける本酵素の特徴を検討した. 1) 血清は悪性腫瘍患者血清を用い, 活性値測定, 3%~9%の gradient gel による Slab 電気泳動法にて, isoenzyme の分析を行い, ALP 染色と同時に蛋白染色を行い, ALP の band の位置を蛋白分画の zymogram と比較検討した. 活性値は悪性腫瘍患者に於いては, 正常婦人に比し約 2 倍を示し, HSAP では極めて高値を示した. gradient gel による isoenzyme pattern では, 血清蛋白の Transferin 分画と Fast α_2 分画に熱感受性のある肝性 ALP の増加が見られ, 熱耐性のある Transferin 分画の band は胎盤性 ALP で

Regan isoenzyme であり, Fast α_2 分画の band は肝性 ALP の variant である. 2) 組織は手術摘出標本を用い, morton の変法により ALP 試料を作成し, 活性値測定, 5% polyacrylamide gel による Disk 電気泳動を行い, BPB により確認した Albumin の位置を 100%とした時の band の位置を検討した. 活性値は正常組織では低く, isoenzyme では共に肝性 ALP の性格を有する. 悪性腫瘍組織に於いては極めて高値を示し, 熱処理後の活性残存率も 10%以上を示した. Disk 電気泳動による isoenzyme では, 熱感受性のある肝性 ALP の増加が見られ, 活性値上昇の大部分を占めた. 熱耐性のある isoenzyme では胎盤性 ALP いわゆる Regan isoenzyme, 胎児小腸性 ALP, 肝性で熱耐性のある ALP が認められた. 3) 組織化学染色法は cryostat にて 6 μ の凍結連続切片を作製し, Azo-dye method にて染色し, 核染色には Hematoxylin を用いた. 56°C 30分にて耐熱試験を行い, 阻害試験は 50mM の L-phenylalanine と L-homoalginine を用いた. 以上の方法にて子宮体癌組織を用い Rogan isoenzyme を示した.

以上本酵素に於ける活性値及び isoenzyme の検索は卵巣腫瘍の悪性度の診断, その他悪性腫瘍の治療終了後の follow up のマーカーとして, 臨床応用する価値が充分あると考える.

質問

(慶応大) 野沢 志朗

① 肝性の熱耐性 ALP の考え方を教えてください.

② 熱耐性 ALP の characterization に関し, L-leucine 感受性試験は如何でしょうか.

回答

(東京医大) 小林 一彦

① HSAP には各種の variant があると思われる. 電気泳動法, neuraminidase 化処理, 熱処理, 各種阻害剤等を用いて検討してみると, この HSAP は肝性 ALP に近い性格を持つものと思われた.

② 今回は, L-phenylalanine と L-homoalginine による阻害試験を示しましたが, L-leucine による阻害では変化を認めておりません.

24. 胎盤特異組織蛋白 (PP₅, PP₁₀, PP₁₁) の卵巣腺癌における, いわゆる “tumor makers” としての臨床応用

(川崎製鉄千葉病院)

仁藤 章男, 板橋光司郎

(Behring Institute)

ハンス・ボーン, ゲルハルド・リュウベン

目的: ヒト胎盤より描出され, 主として絨毛